

横尾忠則 ワーイ!★Y字路

Yokoo Tadanori: Wow! ★ Y-Junctions

2024年1月27日(土)―5月6日(月・振替休日)

開館時間 10:00―18:00

※ 入場は17:30まで

休館日 月曜日(ただし2月12日(月・振替休日)、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振替休日)は開館、2月13日(火)、4月30日(火)は休館)

会場 横尾忠則現代美術館



ポスター(デザイン:横尾忠則)

展覧会について

2000年、故郷の西脇で、横尾忠則は夜の三叉路をストロボ撮影しました。すると見慣れたはずの景色が、全く異なる風景となって立ち現れたのです。この写真からインスピレーションを得た横尾は「Y字路」シリーズに着手、それらはやがて彼にとって重要なライフワークとなっていきます。内省的な光と闇の世界は、祝祭的な色彩の爆発を経て、さらに変幻自在なバリエーションを生み出しつつ今日に至っています。

2015年、当館では2006～2015年の作品による「横尾忠則 続・Y字路」を開催しました。本展はいわばそれを補完するもので、シリーズの原点である初期作品(2000～2005年)、および新近作(2016年～)により、多彩な「Y字路」シリーズの魅力に迫ります。

※本展は、本来はシリーズ誕生20周年を記念し、2020年度に開催される予定でしたが、コロナ禍により延期されていたものです

※展覧会タイトル「ワーイ!★Y字路」は、横尾の命名によるものです

闇への眼差し Y字路シリーズの誕生

(2000~2005)

西脇市岡之山美術館で2000年10月から開催された「横尾忠則西脇・記憶の光景展」のために、横尾は故郷の西脇に滞在し、のべ12日間で17点もの新作を描きました。この時の横尾の主要な関心は「夜の西脇」で、夜間に繰り返し取材に出かけています。かつての通学路である椿坂に、足繁く通った模型店の跡地がありました。思い出の場所をレンズ付きフィルム(インスタントカメラ)で撮影、現像したところ、思いがけない画像が現れます。ストロボの光が届く中央の建物は白飛びする一方、左右に別れた道は闇へと溶け込み、見慣れた景色がまるで異質な風景へと様変わりしていたのです。この写真からインスピレーションを得た横尾は、市内各所の夜のY字路を集中的に撮影し、絵画を連作しました。発表当初《ブラックホールN市》と題されていた作品群は、横尾にしては珍しく素直な写実が特徴的です。世紀の変わり目を迎え、故郷を介して自己の原点を見つめ直そうとしていた様子がかがえます。



1
暗夜光路 N市-I
2000
アクリル・布
72.7×91.0cm
横尾忠則現代美術館蔵



2
暗夜光路 N市-II
2000
アクリル・布
72.7×90.9cm
個人蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

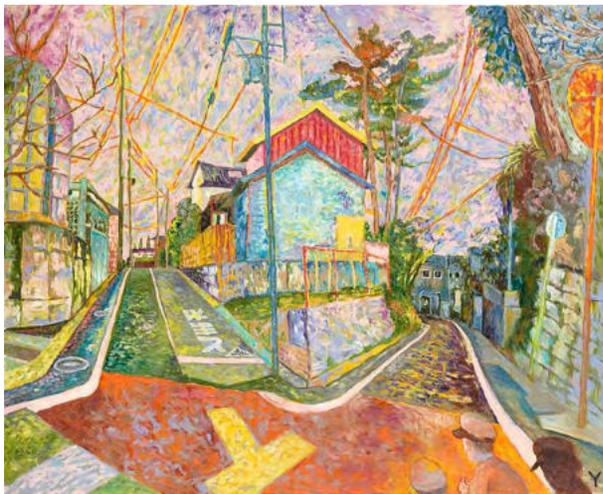


3
暗夜光路 N市-III
2000
アクリル・布
91.2×117.0cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



4
暗夜光路 N市-IV
2000
アクリル・布
73.1×91.4cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

2002年より東京都現代美術館、広島市現代美術館で開催された「横尾忠則 森羅万象」展のために、横尾は17点もの新作Y字路を描き下ろしました。それ以前のY字路は比較モノトーンで、光と闇の対比を重視した求心的な性格が強いのに対し、2002年の作品群はより開放的な色彩にあふれています。この変化の一因として、制作資料として用いられた写真の違いがあげられます。初期作品では、必ず横尾が自ら夜間にストロボ撮影を行っていました。モチーフも故郷の西脇や世田谷の自宅周辺など、自身と距離の近いものに限られ、素直な再現描写が基本となっています。ところが2002年の作品群の場合は、他者が撮影した写真を積極的に活用しています。必ずしも横尾にとって地縁のない、ある意味匿名的な風景写真は、より客観的に突き放しやすく、また素材として気兼ねなく料理することができたのでしょう。大胆な色彩の対比や、現実的にはそこに居るはずのない人物の登場は、Y字路というモチーフが、貪欲なコラージュ表現を受け入れる下地＝プラットフォームへと変質しつつあることを物語っています。



21
本性の模写
2002
油彩・布
130.5×162.4cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



22
朱い水蒸気
2002
油彩・布
130.5×162.3cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



23
健全な感情
2002
油彩・布
130.3×162.1cm
東京ステーションギャラリー蔵



32
とりとめのない彷徨
2002
アクリル・布
181.8×227.3cm
作家蔵

《宮崎の夜》は2004年に宮崎県立美術館で開催された「横尾忠則 Y字路展」の際に公開制作されたもので、公開でY字路が描かれた最初の例です。公開制作の場合、限られた時間内で制作する関係上、細かな描写よりも、必然的にダイナミックな勢いや迫力が優先されます。ところが宮崎の作品群は、台風の接近で帰京できなくなり、時間的余裕が生まれたせいも、公開制作にしては描写が丹念で均整が取れています。

これ以降横尾は、それまで以上に積極的に公開制作を行うようになりました。その一因は、Y字路というモチーフが、公開制作と親和性が高いことにあるでしょう。写真を見ながら描くこと、および最初の手順がほぼパターン化している(左右に分かれた道路奥の消失点をまず決定することから、躊躇なく描き始めることができる)ことから、躊躇なく描き始めることができるのです。また中央に配された建物と、左右奥へと伸びる道路から生まれる放射状の線により、構図の安定性が担保されることも見逃せません。土台となる造形が堅牢なため、即興的に雑多な要素を描き足しても画面は破綻しにくいのです。



55
宮崎の夜 - 台風前夜
2004
アクリル・布
181.6×228.0cm
作家蔵



56
宮崎の夜 - 眠れない家
2004
アクリル・布
181.8×227.3cm
東京国立近代美術館蔵

《At Box Roots》は 2016 年に箱根彫刻の森美術館で開催された「横尾忠則 迷画感応術」展のために描き下ろされた作品で、タイトルは「箱根にて」を英単語に直訳風に置き換えたものです。箱根町内の Y 字路風景に、彫刻の森美術館のコレクション（ジャン・デュビュッフェ、アントニー・ゴームリー、イヴ・クライン、三木富雄、フェルナン・レジェ、イゴール・ミトライ）やピカソ館が描き込まれています。この作品が描かれた直前、横尾は家のなかで転倒して右足小指のつけ根側面を骨折、約 1 ヶ月間入院しました。その際に履いていた治療用の靴が、画面右下にドロイーイングされています。



64
At Box Roots
2016
油彩・布
181.8×227.3cm
彫刻の森美術館(公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団) 蔵

いずれも Y 字路シリーズの第 1 作《暗夜光路 N 市 -I》と同じ、西脇市内の椿坂がモチーフとなっていますが、必ず上空に B29 爆撃機が描かれるなど、戦争の記憶が反映されています。《回転する家》で傾き始めた中央の建物は、《Last B29》ではシルエットの女性にジャッキアップされ、さらに激しく傾いています。《ギルガメッシュと MP》では中央の建物は水平に戻っているものの、その前にはのんきに行水する女性が描かれ、左右に進駐軍 (MP) となぜかギルガメッシュが配置されています。唐突な古代メソポタミア王の登場は、夢のなかで突如「ギルガメッシュ」という言葉が啓示のように響いたことによるものです。目覚めてから調べたところ、ギルガメッシュはしばしば予知夢を見ていたことが分かりました。横尾自身も夢を重視し、しばしば作品に取り入れていることからギルガメッシュに親近感を抱いたのです。



67
回転する家
2018
油彩・布
162.1×130.3cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



68
Last B29
2019
油彩・布
162.0×130.0cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



69
ギルガメッシュとMP
2019
油彩・布
145.5×112.0cm
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

関連イベント

キュレーターズ・トーク

日 時:2月17日(土)、3月16日(土)、4月20日(土) いずれも14:00—14:45

担当学芸員が本展の見どころを分かりやすく解説します

会 場:当館オープンスタジオ

講 師:当館学芸員

参加費:無料

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

同時開催

Yokoo Tadanori Collection Gallery 2023 Part2 「風景考」

1月27日(土)—5月6日(月・振替休日)

同時開催の「横尾忠則 ワーイ!★Y字路」展に関連づけ、横尾のコレクションのなかからギュスターヴ・ドレ(1832-1883)やマン・レイ(1890-1976)、クリスト(1935-2020)ら西洋近現代美術の巨匠による、「風景」に関連した作品を特集します。

出品点数 13点

※入場には「横尾忠則 ワーイ!★Y字路」展のチケットが必要です

相互割引

- ・兵庫県立美術館(特別展またはコレクション展)のチケット半券→当館企画展が団体割引料金に
 - ・当館企画展のチケット半券→兵庫県立美術館(特別展またはコレクション展)が団体割引料金に
- ※会期中のチケット半券に限り有効

基本情報

横尾忠則 ワーイ!★Y字路

Yokoo Tadanori: Wow! ★ Y-Junctions

2024年1月27日(土)―5月6日(月・振替休日)

開館時間 10:00―18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日(ただし2月12日(月・振替休日)、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振替休日)は開館、
2月13日(火)、4月30日(火)は休館)

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)、読売新聞社

協力 **ホテルオークラ 神戸**

観覧料 一般700(550)円、大学生550(400)円、70歳以上350(250)円、
高校生以下無料

- ・ ()内は20名以上の団体割引料金
- ・ 障害者手帳等をお持ちの方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引
- ・ 障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料
- ・ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

出品点数 69点

※状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください

お問合せ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888
学芸担当: 山本淳夫<yamamoto_atsuo@ytmoca.jp>
広報担当: 早水千尋<hayamizu_chihiro@ytmoca.jp>

画像データは当館ホームページ(<https://ytmoca.jp>)のプレス専用ページからお申込みいただけます
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください